

### 戦略 3関連 災害リスクと環境問題に立ち向かう都市の構築

長期的な視点に立った災害対策やCO<sub>2</sub>フリー社会の実現に向けた都市づくりにより、安全・安心と東京ならではの良好な街並みが両立したスマートな都市を目指します。



（木造住宅密集地域が解消された魅力的な住宅市街地）

かつての木造住宅密集地域は耐震化・不燃化、延焼遮断帯※の形成が進み、木造住宅の良さや、路地の雰囲気を生かしたまちとして再生しています。

電柱や電線が無くなった道路と繋がるポケットパーク※では、平時においてもかまどベンチ※を利用したバーベキューが行われるなど、地域のコミュニティが育まれています。



(磨き上げられた宝物を楽しむ多くの人でにぎわう島しょ部)

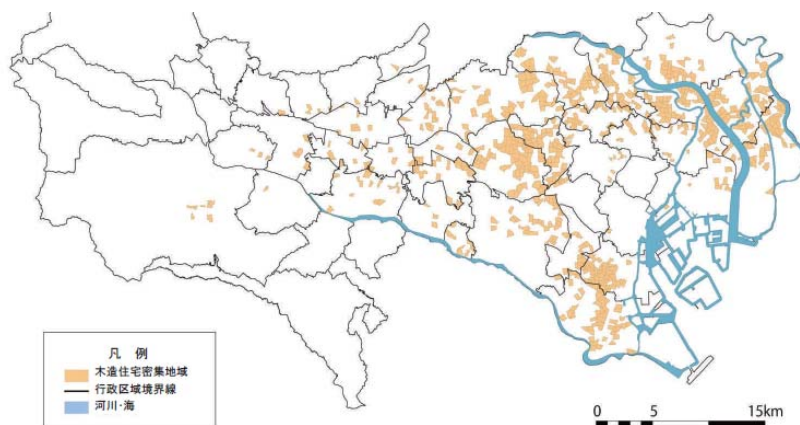
太陽光や地熱、風力など、再生可能エネルギーの利用が拡大する島しょ部では、地域の人々が遠隔医療や自動運転技術、スマートモビリティ※などの先端技術を利用し、安全で快適な生活を送っています。

地域で採れた野菜や魚が並ぶマルシェや伝統文化の体験イベントが定期的に行われ、国内外から訪れる観光客がエコツーリズムやマリンスポーツを楽しんでいます。

### (現状と将来の見込み等)

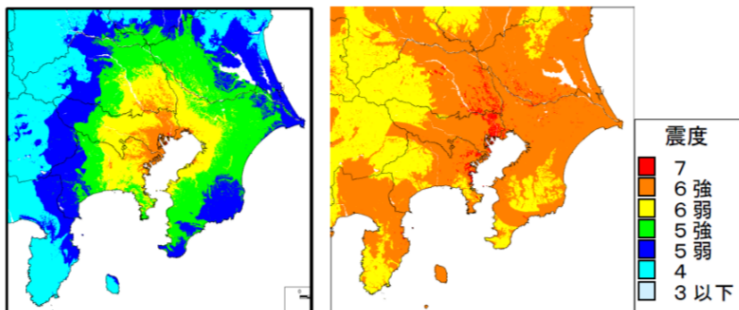
- ・首都直下地震や地球規模の気候変動により引き起こされる豪雨など、様々な災害リスクに対応するため、次世代につながる長期的な視点に立った都市づくりを計画的に進めていく必要があります。(図3-1, 2.)
- ・想定外の災害にも備え、様々なオープンスペースを「都市の余白」として確保し、平時は暫定的な土地利用に留めておくことも重要になります。
- ・CO<sub>2</sub>フリー社会の実現には、省エネルギー対策を建物単体で行うことだけでなく、環境技術の進展も見越して面的にエネルギー施策を講じていくことも求められています。(図3-3)

図3-1 木造住宅密集地域の状況  
(平成28年3月現在)



(資料)「防災都市づくり推進計画(改定)」(平成28年3月)から作成

図3-2 首都直下地震の震度分布

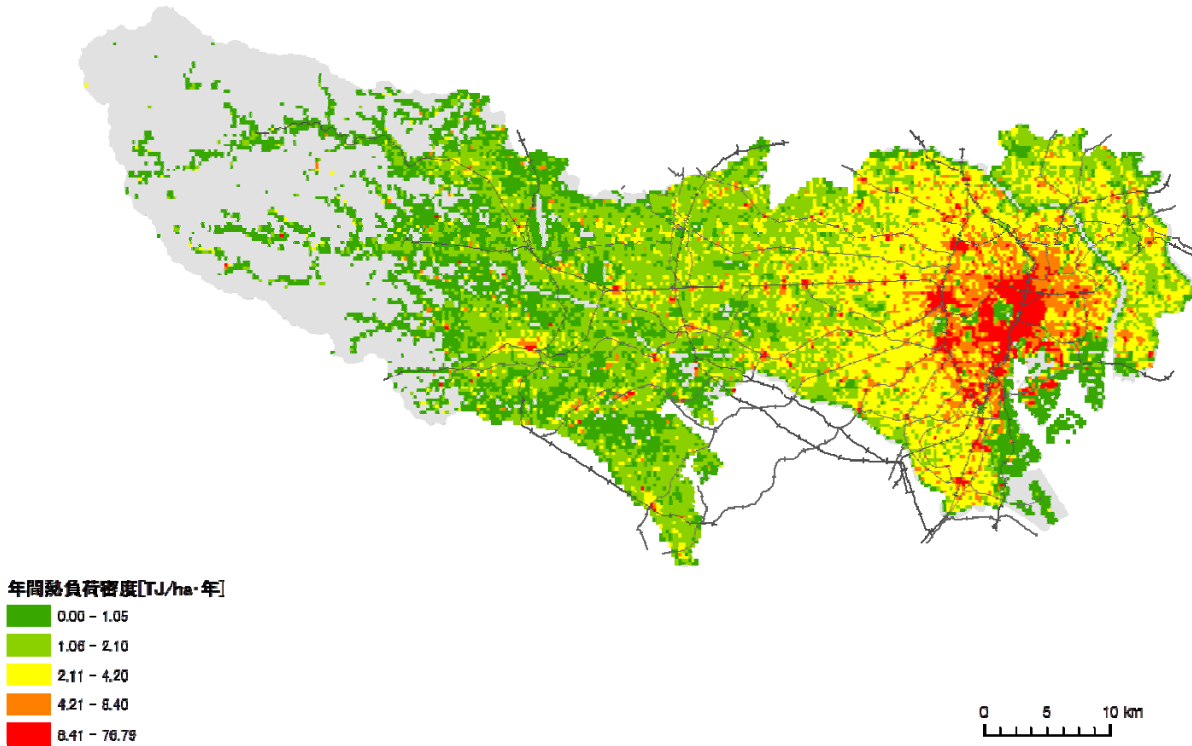


左：都心南部直下地震の震度分布  
右：首都直下のM7クラスの地震の重ね合わせた震度分布

地殻内(Mw6.8)、フィリピン海プレート内(Mw7.3)に一律に震源を想定した場合の震度分布及びM7クラスの19地震の震度分布を重ね合わせたもの

(資料)「首都直下地震の被害想定と対策について(最終報告)」(平成25年12月 中央防災会議 首都直下地震対策ワーキンググループ)から東京都作成

図3-3 年間熱負荷密度



(資料) 「土地利用現況調査」(平成23,24年)を基に、建物の用途別延床面積に用途別エネルギー負荷原単位を乗じて作成

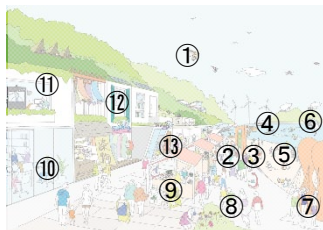
## パースの解説

### キープラン

### 解説



①都市計画道路の整備に併せて形成された延焼遮断帯 ②気軽に演劇や音楽を楽しめる文化ホール ③無電柱化が進み安全で歩きやすい身近な地域の道路 ④歩道や生け垣の緑が連なり、緑を感じながら回遊できる都市空間 ⑤太陽光発電やIoTなどの最先端技術を導入したエコハウス ⑥屋上や壁面が緑化された住宅 ⑦採れたて野菜を楽しめる屋上庭園 ⑧空き家や空き倉庫をリノベーションし地域のにぎわいを創出 ⑨緑に囲まれたゆとりのある住環境 ⑩空き地をかまどベンチや防災井戸が備えられたポケットパークに転換



①自然や地形を活用した様々なスポーツを楽しめる環境 ②地産地消の再生エネルギーで走行する小型モビリティ ③ニーズに応じた情報を提供するデジタルサイネージ ④二地域居住の場ともなる会場コテージ ⑤世界中の人々を魅了する美しい海 ⑥安全・安心で確実に利用できる航路 ⑦シャワーと一体化したパブリックアート ⑧ICTを活用した自動追従型の運搬ロボット ⑨特産品など島の「宝物」を販売するマルシェ ⑩空き倉庫などストックを有効活用したサテライトオフィス ⑪ICTを活用した遠隔医療サービス ⑫太陽光発電やIoTなどの最先端技術を導入したエコハウス ⑬自然を守りながらも魅力や活力を高めるエコツーリズムの充実